

2013年度 事業計画

(2013年4月1日から2014年3月31日まで)

伝統のかおり 高き学園を目指して

学校法人 修道学園

2013年度 学校法人修道学園 事業計画

＜法人本部＞

主要項目	具体策	実施月
1 . 人事給与制度の整備	(1) 大学部の給与体系の見直しを行う。	年間
	(2) 大学部の職員の人事考課制度を改正する。	年間
2 . 資産の運用	(1) 大学部 運用目標5億円	年間
	(2) 中高部 運用目標 1 億円	年間
3 . 施設の整備	(1) 大学部 ・新3号館・第2期外周道路の完成	9月
	・8号館建設準備 施工業者の決定、第一研究棟解体	年間
4 . 寄付金募集	(2) 中高部 ・グラウンド人工芝化工事	7月
	主として個人を中心とした小口寄付金の推進	年間

2013年度 学校法人修道学園 事業計画

＜大学部＞

主要項目	具 体 策	実施月
I キャンパスマスタープラン		
1. 新3号館・第2期外周道路の竣工	竣工、什器搬入、教員研究室引越し、竣工式、利用開始。	10月
2. 第1研究棟インフラ盛替工事	①施工業者の選定。 ②電気室の移設、高圧ケーブル等移設、空調配管改修。	6月 9月
3. 第1研究棟解体工事	①施工業者決定。 ②アスベスト除去、旧図書館等部分耐震改修、解体撤去。	9月 3月
4. 8号館建設に向けた準備	実施設計、施工業者決定。	9月
5. 食堂棟の改修計画	改修時期の確定、基本設計の確定。	年間
6. 中長期計画の策定	中長期財政計画を見直す。	年間
II 教育力の向上		
1. 学士課程教育の充実、学習環境の改善		
(1) GPA 制度の導入と成績評価の適正化	①高機能 GPA の具体的な運用・算出のあり方等を整理・構築しこれに対応した教学システムをカスタマイズする。 ②成績報告方法の素点化を全学的に促進する。	年間 年間
(2) 学習カルテシステムの導入と検証	システムの試行的運用の結果を検証し、2013年度の本格運用を実施する。	年間
(3) カリキュラムの検証と改善(次期カリキュラムの検討)	①2011年度カリキュラムを検証し、2014年度カリキュラムの策定を進める。 ②次期カリキュラムの改正時期や方針の確定と、各学部(研究科)に対してカリキュラムのコンセプト作りを促していく。 ③ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーに基づく科目間連携(カリキュラムマップの作成)や教育成果指標を検討する。	年間 年間 年間
(4) 机・椅子・AV機器の更新	教室の机・椅子・機器類の更新計画を立てる。	年間
(5) グローバル化への対応	グローバルコース実施に向けた準備及び広報の開始。	年間
(6) チュートリアル機能の充実	各学部と教務部などが連携しながら単位僅少者の面談を実施する。	年間
2. 大学院教育・研究支援体制の充実		
(1) 教員組織の充実	研究指導及び研究指導補助教員数の充足を図る。	9月
(2) 研究支援体制の充実	科研費以外の外部研究資金情報の収集、提供の充実を図る。	年間
(3) 研究環境の整備	研究環境充実の方策を検討する。	年間

主要項目	具体策	実施月
3. 情報環境の改善		
(1) 学術認証フェデレーションへの参加のためのシボレスサーバーの導入	国立情報学研究所の学術認証フェデレーションに参加し、必要システムを導入する。	年間
(2) 新3号館ネットワーク整備	新3号館のネットワークを安全に、安心して利用できるよう必要機器等を調達し、構築する。	年間
4. FD・SDの充実		
(1) ワークショップ型、問題発見型研修	① 学生支援の現状、教職共創、成績評価などをテーマとし、本学の教職員を講師とした内容を中心にする。 第3回「修道カフォーラム」は、8月1日（木）午後開催する。 ② 教授会開催日に合わせて短時間の研修会を実施する。	7月 年間
(2) 授業公開と授業アンケートの効果的な実施と活用 学習成果の評価方法検討の奨励・支援	① 授業公開、授業アンケートを効果的に活用している事例の研修会を開催する。 ② 「教育成果指標の開発支援」事業の取組グループによる報告をもとに開発を推進する。 ③ ディプロマポリシーに反映するために成果指標のあり方を検討する。	年間 年間 年間
(3) SD研修会の開催	研修会への参加報告会を開催する。	9月
Ⅲ 学生の主体的取り組みへの支援		
1. 「地域つながるプロジェクト」の実施	地域の課題を解決するため、学生、教職員、地域が連携して調査・研究、企画・活動を行うプロジェクトを推進する。	年間
2. インターンシップの充実に向けた取り組み	① インターンシップの改善と担当部局の変更を検討する。 ② インターンシップに参加した卒業生にアンケート調査を実施する。	10月 12月
3. キャリア形成支援の充実	S P A（学生就活アドバイザー）活動を強化する。	12月
4. 海外留学プログラム・スカラシップ等の点検	① 中長期スカラシップ及び学費減免制度を見直す。 ② ベトナムの大学との交流協定を検討し締結する。 ③ 交換留学に派遣した卒業生を対象にアンケート調査を実施する。	年間 年間 年間
5. サークル活動の支援	後援会による学外指導者のサークル指導支援の円滑な運用を図る。	年間
6. 学生活動支援（ピア・カウンター含む）の取り組み	① 学生活動支援連絡会と調整しながら、ピア・カウンターの今後のあり方を検討する。 ② 東日本大震災復興支援ボランティア活動を支援する。 ③ 学習ピアのトレーニングのための研修プログラムの「開発」および「実施」	年間 年間 年間
7. ラーニングコモンズの運営	新しく設置されたラーニングコモンズの活用を促進する。	年間

主要項目	具 体 策	実施月
IV 連携の推進		
1. 高校との連携の強化	遠隔授業を実施（前期1回・後期1回）する。	6月・11月
2. 大学との連携	①フラワーフェスティバルへ参加する。 ②共用サテライトの事業に参加する（単位互換、高大連携公開授業など）。	5月 年間
3. 地域社会との連携	商工会議所と合同シンポジウムを開催する。	年間
4. 卒業生との連携	①後援会から移管された卒業生フォーラムを充実させる。 ②卒業生キャリアサポーターを継続的に募集し強化していく。	12月 年間
5. 保証人との連携	保証人に向けた情報提供の充実を図る。	年間
V 安全・安心のキャンパスづくり		
1. セキュリティ向上への対応	防犯カメラの運用について検証する。	年間
VI 持続的成長に向けて		
1. 学部再編	現状を分析し、学部学科専攻の志願者数や難易度、社会的なニーズなどの観点から検討する。	年間
2. 学部・大学院の入学人数の確保、定員管理の適正化	①オープンキャンパスの改善結果を検証する。 ②実施する入試制度の点検と評価を実施し、入試制度の改革を検討する。	年間 10月
3. 組織の再編成	①組織のあり方（事務局、教務部、国際交流センター、学生部、学術交流センターなど）を検討する。 ②職員部長制を検討する。	年間 年間
4. 教職員の顕彰	表彰制度の実施要項を作り、表彰を実施する。	11月
5. 自己点検・評価体制の充実	①大学基準協会の指摘事項に対応する。 ②法務研究科自己点検・評価報告書を作成し大学基準協会の現地視察に対応する。 ③職員ポートフォリオの検討 ④大学ポートレートへの対応	3月 10月 年間 12月
6. 法務研究科のあり方の検討	第2回目の認証評価の状況を見定めながら、法務研究科の存続について最終的な結論を出す。	年間
7. 省エネルギー化の推進	省エネルギー・節電を検討し実施する。	年間
8. 広報の強化策を検討	①テレビCMの効果を検証する（広報効果測定の実施） ②地域に応じた広報の展開（地域別パンフレット作成）	12月 5月
9. 周年事業の実施	①人文学部40周年記念事業を開催する。 ②寄付金の募集	11月 年間

2013年度 学校法人修道学園 事業計画

〈中高部〉

【教員の部】

1. 中高部の全体目標

大学進学実績を向上させる。

(東京大学20名以上、難関国公立大学60名以上、国公立大学医学部20名以上)

2. 全体目標に関する各部署の重点目標と具体的施策

担当部署	重点目標	具体的施策
校長	大学進学実績を向上させるために、教員個々人の業務実態を把握し、教育環境の最適化を図る。	年度当初に教員全員と面接を行い、本校の事業計画の遂行と教員個々人の業務との関連性を検証する。
中学教頭	6年後の「大学進学実績の向上」「東大合格者数20名以上」を目標とした戦略的広報活動を展開する。	本校中学入試の上位300位以内の入学率向上、中高入試志願者数増加に向けて、校内広報関係者の会議を持ち、その成果をふまえて広報活動の見直しを進める。
高校教頭	教学の目標である「知徳併進」にのっとり、「ルールやマナーを守り、学習に取り組む姿勢」の徹底により、学力向上に資する観点から、教科、学年、部署が正しく目標を把握し、目標にそった指導を行えるよう支援する。	生徒一人ひとりの集まりとしてのクラス、学年、学校全体を意識して動向を注視し、適切な指導を行えるよう配慮する。教員個々、教科、学年、部署の指導目標を理解し、適切な指導を行いやすい環境をつくる。
教頭補佐	東大に20名合格させる進学校になるという最重要課題を達成するための各部、各教科、各学年の具体的な取り組みへの助言、サポート、検証を行う。また、両教頭の取り組みと連携して、教職員全体の意識改革を少しずつ進めていく。	目標達成のために教職員全体の意識の共有を図っていく。その際、組織や人間関係などの様々な隙間を埋めることを最優先に考える。また、本校におけるあらゆる教育活動が「身体感覚の弛まぬトレーニング」であるという感覚を共有し、生徒の力を最大限に引き出し、大学進学以降も自ら成長していくことができるように、その基本となる人間力を養成する地道な取り組みを継続していく。
進路部	現浪併せて東大20名以上合格の実現に向けて、東大「志望者」を増やすため、生徒に対する指導と広報に力を入れる。	進路研究部門に新しく東大・医学部進学対策室（兼広報室）を設置する。

担当部署	重点目標	具体的施策
生徒部	修道ならではのさまざまな行事や活動における失敗や挫折を通じて、難関大学合格に必要な創造力や忍耐力を身につけさせる。	生徒会行事や特活行事などでは、適切かつ最低限の助言をすることとどめ、手取り足取りし過ぎないように意識して指導にあたる。生活指導では、生徒の失敗に対し「次から気をつけよう」などと、中途半端なゆるしを与えることがないよう心がける。
教務部	評価内規、付則、教務システムの規定や運用を整理する。	教務内での議論を踏まえて、規定や運用の実情に合っていない箇所を整理し、分かりやすく教員に提示していく。
育成部	徳を備えることが自立した学習につながるという視点に立ち、徳育の充実を図る。	生徒部、学年と連携し、道德教育の充実を図るとともに、様々な機会、場面をとらえて、生徒の発達段階に応じた人間教育を実践する。
第1学年	「当たり前のこと」が「当たり前」にできる」訓練を大切にする。	「月間重点目標」を設定し、統一的・重点的に指導する。
第2学年	授業を中心とする学習習慣を確立させ、生活の中の様々なことを自発的に考える意思を育成する。	授業重視を大前提とし、家庭学習のチェックや補習・補充などを積極的に行う。道德や面談等を通し、自発的に考える機会を設ける。
第3学年	空間的・時間的広がりの中での自分の位置を確認し、自分のあり方を自覚する。	進路指導・学習指導などを通じて社会の中での自分の役割、将来の自分を考えることで、あるべき自己像を形成するとともに実現にむけて努力する。
第4学年	学習することの目的を見定め、文理選択を端緒に進路意識を高め、学習意欲のさらなる向上をめざす。	定期試験・校外模試のデータに基づく個人面談を充実させる。また進路講演会等を通じてLHRでの進路学習の充実を図る。
第5学年	「授業の大切さ」の認識を徹底させる。学力の充実云々以前に精神的な甘さが見受けられるので、まず1年かけてそこを修正していく。また、基礎学力の充実と苦手科目の克服に重点を置いた学習指導を徹底する。	授業を中心に据えつつ、「勉強とは自分でやるものだ」という意識を植え付けるため、年間学習計画表を配布し、それに基づく自主的・計画的な学習を促す。全教科で問題集を設定し、試験範囲に取り入れるなどして、欠点者の根絶、自主学習態度の育成をめざす。

担当部署	重点目標	具体的施策
第6学年	大学受験に向けて互いに切磋琢磨し合う環境の中で、生徒一人ひとりが人間的に成長していけるようバックアップする。進学についての具体的な数値目標は、難関10大学+医学部に現役で50名。	授業・補習・添削等の学習指導をより一層充実させ、全体的な学力の底上げを図る。面談や進路情報の提供などを丁寧に行い、生徒が安心して前向きに努力できる環境づくりを常に心がける。
国語科	古典の基礎学力の向上とともに、和歌の読解力を含めて古典の高度な読解力を習得する。	月例テストでは基礎知識の習得に重点を置いた出題をし、定期テストでは難易度の高い文章を多く出題する。
社会科	小教科を超えた、授業内・授業外(論述指導など)の教科指導の方法論・指導実践の情報を共有する。さらに、各学年・各部との連携強化につとめる。	伝達事項は校内メールなどを使い、教科会を議論の場とする方向で運営する。授業見学を実施する。
数学科	基礎学力を定着させる。	模試を利用し、既習内容の復習を繰り返し行う。
理科 【物理】	高い学力を育成するため、生徒の学習意欲の向上を図る。	詳細な年間計画を提示し、生徒自ら計画的に学習に取り組むもととさせることで、効果的な学習スタイルを身につけさせる。
理科 【化学】	難関大学受験に対応できる高い水準の学力構築を目指し、東大志望者を対象とした学習会を含めたカリキュラムを、体系的に整備する。	中3時後期から高校教材を用いることにより、高校3年6月に教科書を終了させ、問題演習時間を確保するとともに、3年後の新課程大学入試に向けてもカリキュラムの整備を行う。
理科 【生物】	『自然に生きる生物』から、『学問としての生物』までの興味を喚起する。	断片的な知識の詰め込みに終わらないよう、関連する事項と常につなげながらトータルの視点で理解させる授業を展開する。
理科 【地学】	センター試験受験者の内、成績が中・下位層の底上げし、集団の質的向上を図る。	6年の早い段階から地学Ⅰの復習に入り、問題演習の量を多くする。地学基礎のカリキュラムを整備し、5年時で終了させることを目標とする。
英語科	「読む」「聞く」「話す」「書く」の四技能のバランスを意識しながらリスニング力を鍛える。	(授業の種類に関係なく)毎回の授業で語彙習得演習と平行して、音読およびディクテーションの演習を行う。
芸術・技術・家庭科	各教科の特性を生かした授業を通して「豊かな感性」と「価値観」を育てる。	成長段階に応じた知的好奇心を喚起させる授業内容・展開を工夫する。
保健体育科	日常のあらゆる活動の基本となる、軸のしっかりした身体を育成する。	全ての学年で、体育授業の開始5分間、体幹(インナーマッスル)を中心としたトレーニングを通年実施する。

【職員の部】

主要項目	具体策	実施月
◆教職員の能力開発と業務改善 (1) 事務組織の活性化と業務の公平化	事務組織や業務内容の見直しを行う。	年間
(2) 能力開発と業務改善	研修会等に参加することにより、職員個々のレベルアップを図る。	年間
(3) 業務の正確化、迅速化及び省力化の実現	各業務2人体制とし、学校会計については、課員全員が理解し、予算・決算業務に対応できるよう、研修会への積極的参加及び定期的な勉強会等により、専門知識の理解を深める。また、必要に応じてシステム化し業務の省力化を図る。	年間
◆財政 (1) 財政健全化策の検討	中長期の財政の見通しに基づき、財政健全化に向けての諸施策を検討する。	年間
	① 資産運用について、金融情勢を考慮し、より有利な条件で運用できるよう検討する。 ② 消費税増税に対応すべく、2014年度予算において、前年度比5%減を目標とするよう、削減案を検討する。	年間 4月～9月
◆施設関連 (1) 「修道学問所之蔵」復元工事及び文化財申請準備 (2) 教育環境の整備 (3) 省エネ対策	継続して復元工事を行うとともに、竣工後の文化財申請に向けて準備を行う。 ① グラウンド人工芝化等改修工事 ② コンピュータ教室内機器備品の更新（補助金申請） ③ プール改修案の検討 ④ 北館教室へのブラインド設置 LED照明、デマンドコントロール等の調査・研究	年間 4月～7月 5月～8月 4月～8月 4月
◆危機管理関連 (1) 危機管理対策 (2) 防災対策	危機管理マニュアル検討 学籍簿保管庫の耐火・防水対策検討	年間 8月

<p>◆IT 関連 (1) ホームページリニューアル</p>	<p>重要な広報手段として、時代即した内容に変更する。</p>	<p>年間</p>
<p>◆規程の整備 (1) 就業規則等諸規程の整備</p>	<p>① 非常勤講師規程、契約職員規程及び班参与招聘規程を見直し、就業規則を制定する。また、併せて就業規則の見直しを行う。</p>	<p>年間</p>
<p>◆300 周年学園史 (1) 学園 300 年史編纂準備作業</p>	<p>① 学園史編纂に向けてのスケジュール、方針等を検討する。 ② 編纂委員の選任・委嘱を検討する。</p>	<p>年間</p>